



平成三十年四月七日
 皇紀2678年
 (西暦2018年)
 第164号
 発行：淀姫神社社務所
 〒859-4501
 松浦市志佐町浦免632
 TEL・FAX 0956-72-0653

暖かいと言うより少し暑いですね

なんだか初夏の陽気です

これを書いてるのは四月七日です。境内の桜もすっかり葉桜となり、若葉の色がまぶしい時期を迎えています。このところ晴れ間が続いて気温も高めに推移し、春というより初夏のような陽気となりました。少し動けば汗をかくくらいです。

全国的にも、春としては記録的な暖かさとなり、あちらこちらで最高気温の記録が塗り替えられているというニュースも飛び込んでいます。早くも熱中症の危険があると、警戒を呼びかけていたりするようですので、皆さまにおかれましては体調管理に十分に気を付けてお過ごしください。



神社うんちく帖

さて、今回も『古事記』に則り、神さまのご紹介をしたいと思います。

◆豊かさの象徴「豊雲野神」

前回ご紹介した國之常立神に続いて現れたのは「豊雲野神(とよくものかみ)」という神さまです。『日本書紀』では「豊國主尊」などと表記されます。この神さまは國之常立神と同じく、その働きや存在については諸説あります。

名前の中に「豊」という字があることから、「豊かさ」の神とされ、國之常立神が礎となつた国土が、さらに豊かになっていくことを表した神とされているようです。

『古事記』では、國之常立神と同様に、性別のない独神で、すぐお隠れになったと記されています。次から現れる神さまは男女一対の神さまです。

◆土の神「宇比地邇神」「須比智邇神」

続いて現れたのは、「宇比地邇神(うひぢにのかみ)」と「須比智邇神(すひぢにのかみ)」という神さまです。

『古事記』では、宇比地邇神は男神、須比智邇神はその妹神で女神とされています。ここで初めて男女の性別がある神さまが登場します。

もう一つの神話『日本書紀』では、「泥土煮尊」「沙土煮尊」と表記されています。このことから、国土に泥や土が生成されていくことを

表した神さまではないかとされています。

ちなみに、「ひぢ」という言葉は「泥」を指す言葉で、神社重要なお祭りである春祭り(祈年祭)の祝詞などにも登場します。

春祭りは、その年の農作物が豊作であることを神さまにお祈りするお祭りです。その中に――

手肱(たなひじ)に水沫(みなわ)画垂り(かきたり) 向股(むかも)に泥(ひぢ)画寄せて(かきよせて) 取作らむ奥つ御年(おきつみとし)を

――とあります。これは田植えの様子を表した文言で、「手と腕で水を集め、泥をかき寄せて、神さまに捧げる稲(奥つ御年)を作る」という意味です。

こうして次第に国土が具体的に形成されていきます。しかし、まだまだ人間が住めるような状態ではありません。

これから登場される神さまたちによって、さらに国土は作られます。

淀姫神社インターネット公式サイト「淀姫神社WEB」 <http://yodohimejinja.com/>

各種最新情報・blog「淀姫日記」にて「お祭りレポート」などなど、内容盛りだくさんでお送りしています。ぜひともチェックしてくださいませ。